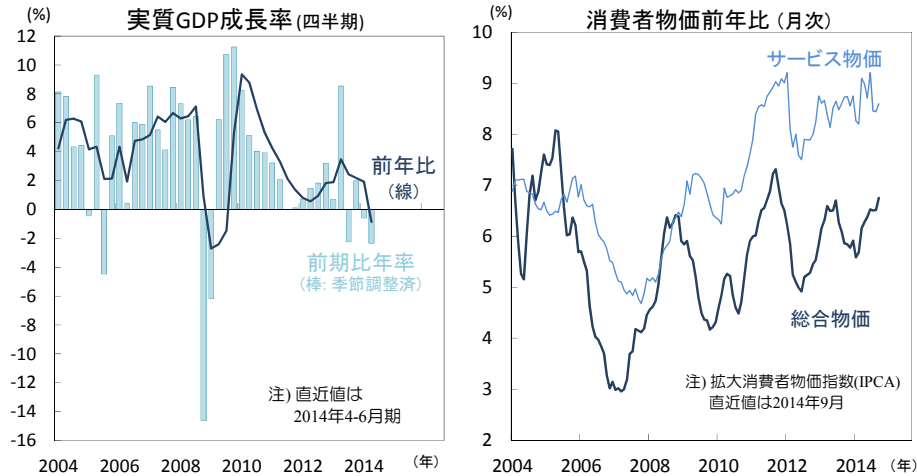


ブラジル：歴史的接戦となった大統領選挙決選投票で、ルセフ大統領の再選が決定

【図1】低迷する経済成長率(左)と高止まる消費者物価(右)

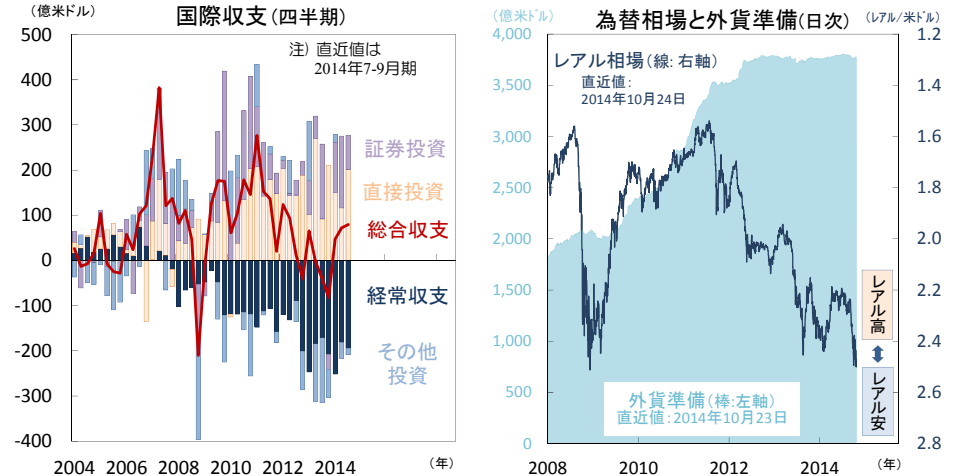


出所) ブラジル地理統計院(IBGE)、CEIC

10月26日の大統領選挙の決選投票の結果、ジルマ・ルセフ大統領が51.6%の有効票を獲得(99%開票時点)。異例の接戦の結果、同氏の大統領続投が決まりました。

選挙の争点の一つは経済政策でした。2004-10年に平均+4.5%の堅調な成長を続けた経済は近年低迷(図1左)。今年4-6月期の実質GDPの前年比は▲0.9%と約5年ぶりにマイナスとなり、今年通年の成長率は+0.3%と昨年の+2.5%を下回る見通しで、4年連続の成長率+3%台割れは避けられそうにありません。景気低迷が続く一方で物価は高止まり(図1右)、経常赤字も縮小せず(図2左)。民間投資の低迷等による経済の供給能力低下も懸念されます。同国の経済が好調だった2004-08年には、中国が投資主導の成長を続ける中で資源需要が急増。また、ルラ大統領(当時)が低所得家計への条件付現金給付などを導入する中で民間消費が急伸びました。しかし、企業投資を妨げる複雑な税制と高い税率、過剰な労働者の保護などは改められず。この結果、企業投資は低迷を続け、経済の供給能力は低下。需要増加の結果、物価は上昇し経常赤字は拡大しました。

【図2】容易に縮小しない経常赤字(左)と低迷するリアル相場(右)



出所) ブラジル中央銀行(BCB)、CEIC、Bloomberg

2011年に就任したルセフ大統領は、ルラ氏の政策を継承し消費刺激策を続行。また、低迷する景気を刺激しようと緩和的な財政政策を取り、物価を一層押し上げました。こうした中で、格付大手S&Pが今年3月に同国の外貨建長期格付をBBB→BBB-に引下げ、格付大手ムーディーズも今年9月に同格付(Baa2)の見通しをネガティブに変更。経済成長力の低下や財政の悪化が理由で、財政指標の不透明な操作も問題視されました。

今回の対立候補のネバス上院議員は政府の経済運営を厳しく批判し、財政の健全化、中央銀行の独立性の強化、変動相場制の尊重(市場介入の抑制)などを公約。市場参加者の一部は、政権交代による経済運営の健全化を期待しました。しかし、最終的には低所得家計による根強い支持などを背景にルセフ氏の続投が決定。週明けの市場では株式や通貨レアルの失望売りが予想されます。ルセフ氏は、選挙期間中の批判を受け政策見直しの可能性を示唆したものの、大幅な政策転換の可能性は低いとみられます。経済状況悪化が続く中で、リアル相場は上値の重い展開が予想されます。(入村)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はいくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問経済調査部の見解です。
また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。